

鶴岡まちづくり塾藤島グループの協議内容について

鶴岡まちづくり塾藤島グループでは、「この10年で鶴岡市、藤島地域に必要なもの（こと）」をテーマにしてブレインストーミングによる意見出しを行い、計40個の意見が出された。その後、出された意見をKJ法によって関連性のあるもの同士をつなぎ合わせ、これを3回行って段階的に整理・集約した。その結果、下表のとおり8つの意見項目に統合することができた。

№.	項目	意見	意見数	趣旨	対応する地域振興施策方針
1	歴史文化の継承・発展	藤島や鶴岡の歴史文化を継承し、活性化を推進していく。	4	<p>伝統芸能は地域に欠かせない行事であるとともに、藤島地域のアイデンティティであり、住民をつなぐ重要な役割をもつものでもある。しかし、近年は後継者不足などの問題で活動が停滞ぎみであるので、伝統芸能を活用した行事を実施するなど、活性化策を検討すべきである。</p> <p>また、藤島や鶴岡には伝統芸能以外にも受け継ぐべき歴史文化があるが、現状ではそれらを知ることのできる機会が少ないため、子どものうちから歴史・文化に触れ、学ぶことのできる機会を創出するべきである。</p>	歴史と文化、交流が彩るふじのまちづくりの推進
2	自然との共生	自然環境による問題を解消するとともに、地域の自然環境について学び、みんなが自然に親しむすみよいまちをつくる。	6	<p>近年過疎・高齢化が急速に進み、除雪が困難になるなど、自然環境に起因する暮らしの負担感が増加している。それに対しては、自助はもちろんのこと、市民と行政で役割分担を行い、『共助・公助』によって協働でのきれいですみよいまちづくりを目指すべきである。</p> <p>また、地域の暮らし・産業を支えている藤島の豊かな自然環境を持続的に維持するためには、自然に対する理解を深め、自然を大切にする心を育むことが肝要である。その第一歩は自然に親しむことから始まると思うが、庄内の冬は寒く厳しい、という印象を持たれがちなので、見方を変えることで地元が自然環境に恵まれていることに気付き、親しみを感じてもらえるような取り組みを行っていくことが重要になる。</p>	くらしやすい“藤島”を実感できる生活基盤の構築

3	食育の推進	地産地消を通して食文化を継承するとともに食の重要性を発信することで、食への関心を高め、郷土愛を育む。	4	食文化は藤島や鶴岡における代表的な地域資源であるが、その魅力を伝えることは難しく、気付いていない地域住民も多い。最近では、食文化の魅力に気づかず、そのまま転出してしまうといったケースは少なくない。したがって、給食への地場産の供給率を上げるなど、子どものうちから食へ関心をもつようにして食文化を浸透させるシステムをつくり、さらには食文化を活用した地域愛を醸成できるような取組みを検討する必要がある。	
4	安定した農業基盤の確立	働きやすい環境の整備、農業継承の支援、そして農家自身の主体的農業経営によって安定した農業基盤を築く。	4	現在の藤島農業を支えている農家の高齢化が進む一方で、若い新規就農者や農業後継者は非常に少ない状況である。農業収益が低下などで耕作放棄地が増加していることも踏まえ、働きやすい環境を整備して藤島の農業を支える次の世代の人材を確保できるようにするとともに、6次産業化が叫ばれる昨今の農業事情に対応して農家の農業経営力を強化し、所得向上等につなげて、農業の活性化を図って安定した農業基盤を構築する必要がある。	
5	地域社会のネットワーク化・コンパクト化	地域社会の実情に合わせ、ネットワーク化・コンパクト化を図る。	3	人口増加時代に構築された地域社会のシステムが、昨今の人口の減少やそれに伴うコミュニティの性質の変化によって維持できなくなっているものが多い。したがって、人口やコミュニティ事情を踏まえてシステムをコンパクトにしたり、地域資源を最大限に活用するために他地域とのネットワーク化を図ったりすることで、人口減少・少子高齢社会においても一定の圏域人口を有し、活力ある社会経済を維持するための拠点を維持するようになっていくべきである。	豊かな田園文化の継承と水田農業革命の実現

6	施設の利活用促進	市民が身近に利用できるよう、既存の施設の利活用を促進する。	5 近年の価値観の多様化、ひいてはコミュニティの多様化や合併によって、地域コミュニティの「散逸化」が進んでいる。一方、住民活動の拠点として、その役割を發揮できるポテンシャルを持つ施設は十分に藤島にある。したがって、新たな視点から施設の有効な利活用を検討し、住民に親しまれ、賑わいのある活動拠点づくりに取り組むべきである。	くらしやすい“藤島”を実感できる生活基盤の構築
7	地域交流の創出・促進	人と人がつながることのできる地域のふれあいの場を創出する。	9 地域コミュニティの「散逸化」によって地元で住民同士が交流する機会が減少しており、地元への愛着も薄れてきている。さまざまな人が安心して生き生きと暮らせるまちをつくり、地元で愛着を持つ人が増えるようにするためにも、〇〇など、地元で住民同士が交流する機会を創出し、地域交流を促進していきたいところである。	くらしやすい“藤島”を実感できる生活基盤の構築
8	人材の確保・育成	移住定住支援施策を推進し、人材の確保・育成に努め、人口減少問題に対応する。	4 人口の減少が著しい藤島は、暮らしやすい、また子育てしやすい環境を整え、人材の確保に努めるべきである。特に鶴岡市・藤島地域は他自治体と比較しても子育て環境が充実しているとは言えない状況にあるので、子どもが活発に活動し、のびのび育っていくような取り組みに主眼をおいて、充実した子ども時代を送れる藤島をつくるべきである。 また、年々空き家が増加してくることを踏まえて、空き家を活用した移住者支援などを実施するなどして、人材確保を行うことも検討すべきである。	くらしやすい“藤島”を実感できる生活基盤の構築